

育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報 No.153
 (平成28年11月30日発行)
<http://www.esnet.ed.jp/center/>
 〒791-1136 愛媛県松山市上野町甲650番地
 TEL 089-963-3111(代) FAX 089-963-3146

- 教育開発部長挨拶 1
- 総合教育センターホームページの紹介 1
- 専門研修について 2
- 課題別研修について 2

- 基礎研修初任者研修について 3
- 基礎研修10年教職経験者研修について 3
- 調査・研究発表会のお知らせ 4
- 教育相談室から 4



「愛媛教育の底力」

教育開発部長 宇都宮 基

愛媛県総合教育センターへ赴任して半年。学校現場の経験しかなかった私にとって、大きな環境の変化と言えます。本センターへ赴任するに当たり、退職された校長先生がこんな言葉を掛けてくださいました。

「未知の体験というのは多くの収穫をもたらすよ。不安や戸惑いもあるだろうが、大事なことは期待することだ。」実際に勤務してみて、初めての業務に戸惑うことも多々ありましたが、今まで経験したことのない仕事に楽しさを感じるこのほうが多かったと思います。あつという間の半年間でしたが、これからもポジティブに勤務してまいりたいと思います。

さて、本センターの役割については、現在、研修事業の果たす役割が大きくなっています。教職員の資質・能力の向上に寄与することで県全体の教育力を高め、愛媛の子どもたちの学力向上を図るということです。具体的には基礎研修をはじめ、各種研修講座や出前講座の実施、センター独自の調査・研究を中心に多

くの業務に携わっています。

そのような中、愛媛県教育委員会が推進してきた「愛媛県学力向上5か年計画」の最終年度を迎え、目標としていた「全国トップ10入り」を小中学校ともに達成したことは、記憶に新しいところです。かつては高い教育水準を維持していた愛媛県ではありましたが、数年来の学力調査の結果を踏まえると、安心できる状況ではなかったと思います。県全体としての取組が奏功した今回、改めて愛媛県教職員や県及び各市町教育委員会、教育関係者の皆様方の底力を感じた次第です。学力向上の一端を担っている本センターとしましても、今後の更なる向上に向け、改善・充実を図っていかねばならないと考えています。

幼児教育、義務教育で学力を付けた子どもたちが、高等学校や上級学校での学びを深め、将来愛媛を背負って立つ人材となることを思えば、楽しくもあり、また身の引き締まる思いでもあります。これからも、愛媛教育の中核機関である本センターの業務に対し、御理解と御支援をいただくことをお願いいたします。



愛媛の子どもたちのために

愛媛県イメージアップキャラクター みきゃん

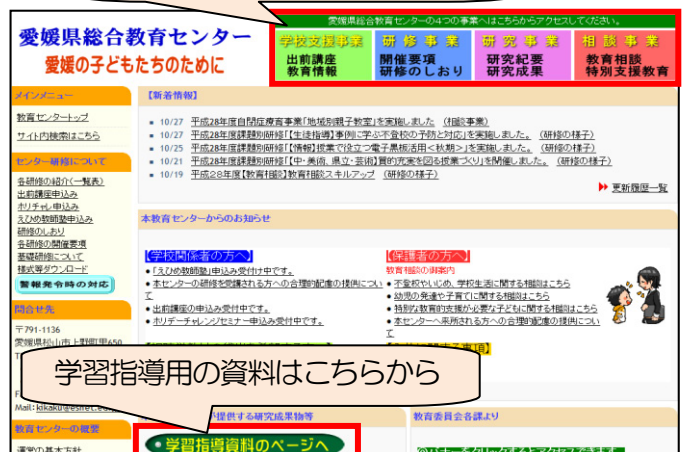
総合教育センターホームページの紹介

本センターホームページでは、愛媛の子どもたちのために、家庭・学校を総合的に支援するための情報を掲載しています。最新の教育情報や本センターの取組を随時更新していますので、ぜひ御活用ください。

センターが実施する四つの事業内容を掲載

- 1 学校の教育活動を支援（学校支援事業）
- 2 教職員の各種研修を実施（研修事業）
- 3 学校づくりや授業改善に活用できる調査・研究を実施（研究事業）
- 4 子どもの発達や教育に関する相談・支援を実施（相談事業）

四つの事業の詳細はこちらから



学習指導用の資料はこちらから

専門研修

— 【事務係長】ミドルリーダー研修・【事務長】スクールリーダー研修 —



本年度は、専門的・特定分野における専門性を高める専門研修を1講座から9講座に拡充しました。

6月24日に開催した「【事務係長】ミドルリーダー研修」は、主体的に学校運営に参画する意識を高め、事務係長として求められる資質・能力の向上を図るために、本年度新たに開設した研修です。講義を通して、組織マネジメントの必要性などに対する理解を深めました。さらに、事務係長に求められる役割を踏まえた学校の課題への対応について協議を行い、学校経営を支えるミドルリーダーとしての資質・能力の向上を図りました。

また、7月25日に開催した「【事務長】スクール



リーダー研修」は、事務長として求められる資質・能力の向上を図るために、昨年度開設した研修で、本年度から専門研修に移行しました。九州大学大学院教授の元兼正浩先生による講義を通して、教育課題の解決や人材育成などを進めるための学校組織マネジメントに対する理解を深めました。さらに、学校の課題への対応について協議を行い、スクールリーダーとしての資質・能力の向上を図りました。

専門性を生かしつつ、チーム学校の一員としての役割が期待されている学校事務職員を、本センターはこれからも支援していきます。

課題別研修

— 幼児教育講座 —

本年度は、課題別研修幼児教育講座を3講座開催しました。昨年度までは、幼児教育関係教員を対象に研修を行っていましたが、本年度からは、小学校教員も受講することができるようになりました。

3講座の内容についてお知らせします。

「支援の幅を広げる保育技術専門研修」

幼児期における発達や特性に応じた保育を進めるための専門的な講義やグループ協議を通して、幼児に対する支援の幅を広げ、保育技術の向上を図りました。



〈受講者の声〉
グループ協議を通して、小学校や幼稚園の様々な取組や声の掛け方などを具体的に知ることができました。

「保育に生かすコミュニケーション研修」

幼児や保護者の理解及び情報技術向上のための研修を通して、指導力の向上とコミュニケーションのスキルアップを図りました。



〈受講者の声〉
実習が多く、一つ一つの研修があっという間でした。自分が実際に体験してみると子どもの頃の気持ちに戻り、大変分かりやすく学ぶことができました。

「遊びを通して幼児を育てる実技研修」

遊びに関する実技研修を通して、保育に生かす知識・技能を習得し、指導力の向上を図りました。



〈受講者の声〉
おもちゃ作り、運動遊び、手遊び・歌遊びは、どれもすぐに園で生かすことができるのでよかったです。

このように幼児教育の3講座は、講義、協議、実習などを通して幼児教育に関する様々な内容の研修を行っています。

基礎研修 受講者の声

〈初任者研修〉



「日々鍛錬」

大洲高等学校
教諭 尾崎 慎太郎

「日々鍛錬」これは、私が顧問を務めるソフトボール部の今年度のチーム目標です。この目標の下、部員はもちろん、私自身も日々成長していると感じます。教育センターでの研修では、学校では学べないことをたくさん吸収しています。講師のお話を聞いて心が動かされたり、周りの初任者から刺激を受けたりして、必要な知識が増えるだけでなく、教師としての心も成長しています。“Failure teaches success.” たくさん挑戦して、時には失敗して、その失敗から数多くのことを学び、成長したいという向上心を忘れません。生徒と一緒に様々な活動に取り組み、これからも毎日自分を成長させていきます。



「プロの教師になるために」

西条市立東予東中学校
教諭 相原 麻衣

「まずは、どうあれば『プロの教師』なのかを考えてほしい」最初のセンター研修で最も印象に残った言葉です。初めは見当もつかなかったことでしたが、研修を重ねるうちに、「自己肯定感を基盤にした『生きる力』を育て、個々の個性を発揮させる場づくりができる教師」という理想像が固まってきました。悩みを分かち合う仲間や、共に高みを目指す友達もできました。今の私にとって、初任者研修は「教員としての基盤づくりの場」として、なくてはならないものです。年月を経ても、理想の「プロ教師」像を目指すことを忘れないための原点としてしっかりと位置付け、これからも研修に励みたいと思います。

〈10年教職経験者研修〉

10年研修を受講している先生方にインタビューをしました。参加者は、清水大輔 教諭（大洲市立肱川小学校）、篠原香織 教諭（四国中央市立中之庄小学校）、重松邦広 教諭（伊予市立双海中学校）、宮崎美保 教諭（篠山小中組合立篠山中学校）の4名と本センター指導主事 滝澤洋です。

滝澤：研修を受けてどのような感想を持ちましたか。

清水：初心を思い出し、多くのことを学びたいと思っていました。たくさんの引き出しを持つことができました。

篠原：同年代の先生方と話す機会がなかなかなかったのですが、協議する中でいろいろな視点から見た意見が聞けてよい刺激になりました。

重松：次にこのような大きな研修を受ける機会がないことを考えると、この研修の持つ意味の大きさを感じています。

宮崎：普段は、苦手なことや力不足のことがあってもなかなか研修を受ける機会がないので、この研修によって自分の力を高めることができました。

滝澤：どのような研修が印象に残りましたか。

清水：生徒指導や特別支援教育等では、事例を通してこの10年を振り返ることができました。自分がやってきたことの中で課題となっていたことへの対応の仕方を学ぶことができました。

篠原：教科指導等の研修では、具体的な授業実践例を紹介していただいたので、自分の授業の中に取り入れていきたいと思っています。

重松：教科指導等で、一对一の講義を受けました。緊張しましたが、集中して受講することができました。

宮崎：特別支援教育の研修が非常に参考になりました。子どもたちを思い浮かべて研修しました。

滝澤：研修の内容をどのように役立てていきますか。

清水：理論と実践を幅広く学ぶことができました。このことを自分のものとし、一つずつ子どもたちに還元していきたいと思っています。

篠原：まず、授業に生かしていきたいです。そして、子どもだけでなく、同僚にも発信していきたいと思っています。

重松：地域に合った教材づくりの大切さを学びました。地域教材の開発に取り組みたいです。

宮崎：特別支援教育について専門的な知識を得ることができたので、目の前にいる子どもたちに返していきたいと思っています。

滝澤：研修されたことを更に御活躍されることを期待しています。ありがとうございました。



調査・研究発表会のお知らせ

- 1 期 日 平成29年2月10日（金）
- 2 会 場 愛媛県総合教育センター 大講義室等
- 3 研究主題
「輝く愛顔あふれる学校教育の総合的な支援」
- 4 研究発表
(1) 教員自らが主体的に資質・能力を高めていく研修の在り方に関する研究
—学校で活用できる「教師力自己評価票」の開発を通して—
(2) 学習指導の改善を図るための支援の在り方に関する研究
—「学びのサポートシート」の作成を通して—
(3) 学校ホームページの構築支援
—XOOPSからNetCommonsへの移行—
(4) 教育相談における教職員の能力向上に関する研究
(5) 合理的配慮についての校内研修の支援に関する研究
—研修資料の作成・活用を通して—
- 5 長期研修生・短期研修生の発表

6 講演

演題「深い学びを実現するアクティブ・ラーニング」

講師 東京大学高大接続研究開発センター 教授
東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）機構長

白水 始（しろうず はじめ）先生

育成すべき資質・能力を総合的に育むアクティブ・ラーニングの基本的な考え方やその意義の理解を通して、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の在り方について考えていきます。

具体的な実践例も多く紹介していただきますので、この講演を基に、子どもたちの輝く愛顔があふれる授業をつくってみませんか。

内容の詳細及び参加申込みにつきましては、各学校に送付しております案内、又は本センターホームページを御覧ください。

教育相談室から

〈愛媛県の適応指導教室について〉

教育相談室では、県内の幼児児童生徒、保護者及び関係教職員を対象に、来所相談と電話相談を行っています。そのほか、不登校児童生徒を対象とした適応指導教室「こまどり教室」を開設し、子どもの自立と集団への適応を目的に支援を行っています。

平成28年9月現在、県内には、市及び県が開設する適応指導教室が13教室あります（右表参照）。本センターは、適応指導教室の代表という立場で、これらの適応指導教室の相互理解と連携の機会を設けるために、広域不登校対策センター連絡協議会を年に1回開催しています。この連絡協議会では、各適応指導教室が抱える課題を共有し、対策を話し合うことを通じて、適応指導教室、学校、家庭、関係諸機関が連携した、地域ぐるみのサポートネットワークの整備と支援の質の向上を目指しています。

【愛媛県内の適応指導教室】

四国中央市	適応指導教室	「キトリ」
四国中央市	適応指導教室	「ユームールーム」（休室中）
四国中央市	適応指導教室	「はあとふるDoI」
新居浜市	適応指導教室	「あすなる教室」
西条市	適応指導教室	「いしづち」
西条市	適応指導教室	「ひうち」
今治市	適応指導教室	「コスモスの家」
松山市	適応指導教室	「松山わかあゆ教室」
松山市	適応指導教室	「北条文化の森教室」
伊予市	適応指導教室	「はばたき」（平成28年9月開設）
大洲市	適応指導教室	「おおすふれあいスクール」
宇和島市	こども支援教室	「わかたけ」
愛媛県	適応指導教室	「こまどり教室」

所報「育心拓夢（いくしんたくむ）」について

この言葉は本センターが現在の地に移転した昭和57年頃、当時の所員が作った言葉で、敷地内にある石碑に刻まれています。「総合教育センターでは、子どもたちが確かな学力を身に付け、豊かな『心を育む』こと、また、自らの力で未来への『夢を拓く』ことができるように学校支援を行う」という強い思いが込められています。